カトリック幟町教会報
平和の鐘
編集・発行　カトリック幟町教会（宣教企画部 広報係）
広島市内チーム（幟町・東広島・三篠・翠町・向原・岩国）ヴィタリ神父、アルベルト神父、豊田尚臣神父、肥塚俘司神父、中村健三神父、福田誠二神父、大西勇史助祭
〒730-0016　広島市中区幟町４番 42 号
TEL　(082)221-0621　FAX　(082)221-8486
http://www.nobori-cho-catholic.com
2016 年 4 月号　№478

いつくしみ深く　御父のように

「神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償う いけにえとして御子をおつかわしになりました」

ヨハネの手紙１ 4-10

いつくしみの特別聖年にあたって、世界中でいろいろな計画がされております。多くの場合は困っている人を助け、難民に宿を提供し、ホームレスに食べさせるなどなどの支援が多いと思われます。

戦争の多い現代の世界では平和を願い、再び静けさを取り戻すための動きも多いのです。そういった努力は尊いもので、確かにあわれみ深い御父のみ顔を思わせるのに役に立つものだと思います。

しかしながら、冒頭に引用されている聖書の言葉を真剣に受け止めると、まだまだ御父のいつくしみを示すには程遠いものです。父である神様が困っている人類を見て、一番大切な御子をこの世に遣わされ、私たちの罪のためにいけにえとして犠牲にされたというあわれみです。私たちは、そういう御父のあわれみ深いみ顔を示すために何をすればいいのでしょうか。考えても考えても簡単には答えが出ませんが、私たちができる大切な事のひとつは、住んでいる街に、私たちの家族に、み言葉と行動とをもって御子であるイエス様を”与える”という事ではないかと思います。

御父がそこまで犠牲を払われたように私たちも犠牲を払ってイエス様をもたらし、その愛と教えを証するということです。

また、父である神様は私たちをあわれんで下さっただけではなく、本気で愛して下さいました。

私達もその愛を示そうとする時、なんの苦しみも苦労もない形では決して出来ません。

いつくしみの特別聖年にあたって私たちの教会は、父である神様のみ顔を示すために、「イエス様の生き方とその福音が現代の人に幸せをもたらす」という確信をもって、それを証し広めようではありませんか。私たちの福音宣教の使命が問われている聖年であり、受けた洗礼にどのように生きていくかも試されている年であります。

ヴィタリ　ドメニコ神父

✚聖霊、来てください

宣教司牧評議会　信徒評議員　ＳＭ

４０年近いサラリーマン生活は、同時に転勤生活でもあり、紙切れ一枚で全国各地に飛ばされます。最近では効率化の名のもとに紙切れも無くなり、口頭で異動を命じられます。しかし、別の見方をすれば「転勤もまた楽し」。何せ会社の費用で巡礼をさせてもらっているのです。東京の聖イグナチオ教会から福岡の高宮教会まで数々の出会いと思い出があります。

中でも、今は無くなってしましましたが、大阪に単身赴任していた時に通っていた桜ノ宮教会では神父様不足から月に一度は主日ミサではなく、信徒による集会祭儀が行われていました。集会祭儀の前の週には神父様と２０人くらいの信徒が集まって「聖書と典礼」を読んで感じたことや思いを分かち合う準備と聖書の勉強会が行われていました。集会祭儀では福音朗読の後に神父様の説教ではなく、その週の担当信徒による「勧めの言葉」が述べられます。地元の信者さんを差し置いて何故か新参者の私が勧めの言葉の担当に指名されたことがありました。勉強会で聖霊についてのお話を聞いた直後であったために何故？と思うより、「これこそ聖霊の働きである。」と感じて、素直に担当をお受けすることができました。

聖霊は、ヘブライ語ではルーアハ（ruach）と言って、動く空気、すなわち「風」を意味します。神様の息吹です。聖霊降臨やアダム誕生の場面でも風や神様が息を吹き込む場面が出てきます。イザヤの預言は聖霊の働きを「知恵と識別、勇気を与え、主を知り、畏れ敬うことをさせてくれる」と教えてくれています。

よい信者としてもっとイエス様の事を知ってキリストの道を力強く進めるようになるには、神様の息吹である聖霊の助けがなくてはなりません。神様、聖霊様の助けを請い願うと実はもう既に聖霊に身体も心も抱かれ、大きな神様の愛に浸されていることが実感できます。皆様の心の中にも暖かな風が吹くことをお祈りします。

わたしは信じます。主であり、いのちの与え主である聖霊を。

受洗おめでとう

3 月 26 日の復活徹夜祭のミサ中に 10 人の成人が、27 日の復活祭ミサ中に 5 人の子どもたちが、それぞれ洗礼の秘跡に与りました。これから、私たち家族の一員として一緒に歩んでいきます。どうぞよろしくお願いします。

Report 代父母子同期会

研修係

2 月 7 日、昨年受洗した 10 人とその代父母などが集まり、それぞれの近況報告と分かち合いを行い、信仰を新たにしました。

最初に信徒代表のHさんから、教会共同体からの迎えの言葉と、教会活動への参画を促す挨拶があり、共同体として受洗者を大切に思っていることが述べられました。ヴィタリ神父からは信仰にとって大切なことや、四旬節の行事や意向についてお話いただきました。

その後、代子・代父が近況を報告し、共にお互いに支えられて信仰を新たにしている、受洗後も勉強を続けている、ミサの受け止めなどが変わって来た、祈りやミサが日常のリズムとなり仕事や生活に張りが出ているなど、良い影響を受けている様子が述べられました。

教会のことなどで不明なことや質問について聞くと、子どもの泣き声など気になるという声が挙がりました。しかし、ヴィタリ神父からも、代父母として参加している人からも、イエス様が子どもを招いた事から、子どもを隔離するのでなく、親の信仰の姿勢を見せる事が重要、なるべく前の方で見せてあげる事は大事という事が言われシスター宮崎は子どもだけでなく病気などの大人でもそのような事もあるが、周りも理解して、受け入れる事が重要だと述べられました。参加者からも、お御堂右前方には教会学校の子ども達を主体とした席があるし、子どもを連れた人などは誘導してあげると良い、理解を求めるアナウンスが必要という意見がありました。ここでも、信仰の姿勢を見せる事が大切であると示されました。

シスター天野と、Sさんからは、マリアホールで火曜と木曜の10時～16時、「オアシス」と言って自由に来られる場を設けているので、 利用してほしいと案内がありました。

続いて、ヴィタリ神父より、いつくしみの特別聖年の冊子とカトリック生活（冊子）見本が希望者に配られ、信仰について、次のようにお話し下さいました。

『信仰は、知識だけではなく、また時間をかけなければ醸成されない。繰り返し習慣になることが大切。また、普段は日常生活にとらわれているので、日曜にミサに与ることを大切に、日曜無理な時は他の日もある。大事なのは神様を優先する事である。

日本は昔、キリスト教が入って来た時、暦が違うので日曜日はなかったし、司祭も少なかった。ブラジルでも地域によっては半年に 1 回しか司祭が回れないところがある。それでも日本でも津和野の殉教者などあったし、キリシタンは長く信仰を伝えた。これらは祈りの力です。家でも祈りましょう。家庭によっては、 難しい人もあるかも知れないけれど、日常生活の中で祈ることは大切である』

ヴィタリ神父は最後に、週報にも載せられている行事などについても、読めばわかる、でなく、慣れない人もいるからということで、灰の水曜日、大斎、小斎はじめ、聖ヨハネ.パウロと聖ファウスティナの遺物を迎えるミサの説明や、主に捧げる 24 時間について、信仰との関わりを踏まえて丁寧に説明されました。

終わりにあたり、シスター宮崎の先導によりお告げの祈りを捧げ、閉会しました。

voices 教会学校 卒業おめでとう

ＹＹ（小 6）

ぼくは中学生になったら、スポーツと勉強をしっかり頑張りたいです。スポーツは特にサッカーを頑張ります。大変なことは今まで以上にあると思うけど、つらくても、くじけず頑張っていきたいです。そして、将来プロサッカー選手に絶対なりたいと思います。

次に、とってもとっても苦手な勉強を頑張ります、一時間の授業を集中して、わからなかったら、しっかり先生に聞くなどして、できるだけたくさん 100 点を取れるように頑張ります。

今まで本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

ＣＴ（小 6）

私は、中学生になったら三つ頑張りたいことがあります。それは、勉強と、部活と、学校生活です。

私が特に頑張りたいのは、勉強です。なぜなら、勉強は生きていくうえでとても重要なものだし、知らないよりは知っておいたほうがとても得だからです。中学生の授業は、小学生と比べるとすごく難しくなります。だからこそ今よりも頑張らないといけないなと思いました。大人になって、「あの時もっとこうすれば良かった」と後悔したくはないので、本気で一心不乱に勉強に取り組みます。

そして、今まで私の成長を優しく見守ってくださった、家族のみなさん、教会や予備神学校のみなさん、本当にありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いします。

ＳＨ（中 3）

私はこの中学校生活を終えて、一番感じたことは、仲間の大切さでした。この三年間、思うようにいかないこともたくさんあり、悩んだこともたくさんありました。だけどその時、相談にのってくれて一緒に解決してくれたのは友達でした。なので私はこの３年間は仲間の大切を改めて気づくことができた大切な時間だったと思います。

義務教育が終わり、高校生になります。高校生では自分をしっかりみがき、大学生になったときに困らないような生活をしていきたいです。

ＳＨ（高 3）

私の高校生生活を振り返ってみると、ほとんどラグビーばかりしていました。そのおかげで人として大きく成長することができたと考えています。部活動を通じて、チームプレイの大切さや、周りを見る力がついたなと実感しています。高校生の皆さんにはぜひ、部活動をしてほしいと思っています。

しかし、部活動も大切ですが、教会に行くことも大事です。私は高校三年間の中で、教会に行く機会が全くありませんでした。そのせいで、教会で手伝ったり、侍者をすることができませんでした。今となっては少し後悔しています。新しく中学生、高校生になった人たちには教会に行くことを継続してもらいたいです。最近では、子供の数が減っているので来るだけでもありがたいです。

最後になりましたが、大学生になってからは、教会に少しでも行けるようにしたいと思います。

お互い支え合うために

東

西

南

北

3 月 6 日にブロック会が開かれ、東部、西部、南部、北部のブロックごとに、新しい共同体の組織についてや、地区内の信者同士がお互いにもっと知り合い、支え合うためにどうしたらよいかなどを話し合いました。

編集後記

4 月 10 日、11 日にＧ7 外相会合が広島で開かれます。世界の政治を担う方々が、被爆地で何を感じ、何を決意するのか、注目していきたいですし、私たちも一人の人間として、平和の道具として何ができるのかを考えなくてはいけませんね。　（ひ）

2 月号の記事にて、誤記がありました。お詫びして訂正します。
2 ページ表題の箇所　(誤)宣教司牧委員　ＹＯ　→(正)宣教司牧評議会　信徒評議員　ＹＯ